



TITLE:

時局と水産業

AUTHOR(S):

蜷川, 虎三

CITATION:

蜷川, 虎三. 時局と水産業. 經濟論叢 1937, 45(5): 648-662

ISSUE DATE:

1937-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131023>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 五 卷 第 五 十 四 號

昭和二十年十一月一日發行

論 叢

税制整理の基調

經濟學博士

沙見三郎

失業と勞銀

文學博士

高田保馬

『民約論』に於ける共同體思想

經濟學博士

石川興二

時 論

時局と水産業

經濟學博士

蜷川虎三

研 究

ルーテルの「職業」について

經濟學士

澤崎堅造

チニルゴの租税論

經濟學士

島 恭彦

エツヂワースと誤差の問題

經濟學士

馬場吉行

說 苑

一歐人の日本工業觀

經濟學士

大塚一朗

チウネン圈の數學的説明

經濟學士

山岡亮一

資本移動と景氣變動の問題

經濟學士

松井清

カレツキ景氣循環論

經濟學士

飯田藤次

附 録

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁 轉 載)

時

論

時局と水産業

蜷 川 虎 三

一

今日の時局と水産業とは何か縁の遠いやうに思はれるかも知れない。殊に水産業は一般からは忘れられたる存在であり顧みられぬ産業である。勿論、なぜ忘れられてをり顧みられぬかは問題であるが、兎に角、さうした問題にされぬ水産業を特に持出さないでも、この時局に際して論すべき産業に事缺くことはあるまいとも考へられるであらう。成程、産業の各部面に互り、今日問題は極めて多いが、併し兎に角その多くは一應問題として取上げられてをり世人の關心の對象となつてゐる。ところが水産業になると殆ど一般の關心外に置かれてをり問題の圈外に在るやうに思はれる。果して水産業にはそれ程問題がないのであらうか、また假令水産業自體には問題があるにしても、この時局に際してこれを問題にする必要がないのであらうか、内外の情勢に適應せる産業の再編成が緊要とされる今日、少くともこれらの點は水産業に就いても明らかにされる必要があらう。

水産業が一個の産業として解決すべきそれ自體の問題をもつことは敢て述べるまでもない所である。如何に四

面環海とはいへ、海洋は無限の寶庫である譯ではない。従つて、漁場は次第に狹隘化され殊に沿岸漁場に於て著しいことは周知の事實である。而も沿岸漁場に於ては酷漁と環境の變化とにより自然的生産力の衰退が顯著で、これに依存する沿岸漁業の將來性如何が憂へられざるを得ない状態である。然るに内地の漁獲高の約七割までが沿岸漁業によるものであり、百萬の漁業者の九割餘がこれによつて生活してゐるのであるから、我國の漁業の主体は沿岸漁業であるといひ得るが、この漁業の中心勢力の將來性が問題になるやうでは甚だ心許ないことゝいはねばならぬ。併し、これは百萬の漁業者或は三百萬の漁村民の問題にとゞまらず、我國民經濟並に國民生活に於ける問題でなければならぬ。蓋し、資源に恵まれぬことを嘆ずる我國に於て僅に水界資源だけは誇るに足る如く思はれて來たが、その御自慢の資源も現在の狀態では決して安心の出來るものではないからである。従つてこの儘に推移して行けば、少くとも沿岸漁業が國民經濟に寄與する所は減退しても増加することはないであらうし、國民の食糧として米穀と共に主要なる地位を占める水産物の供給は豊富且つ低廉ではあり得ないことゝなるであらう。果してこの問題は今日に於て考慮する必要がないであらうか。殊に現在重大視されてゐる國民體位の問題の如きは、種々なる生活條件の不良なることに原因するであらうが、根本に於て營養の良好ならざることに歸するといはれる。従つて問題の解決は、國民の生活方法の改善に在ることは論を俟たないが、同時に經濟的に豊富なる營養資料の供給が社會的に行はれるのでなければ生活の改善も要するに空語に過ぎない。而してこのことは單に國民體位の向上の問題ばかりでなく、我國の商品の世界市場に於ける優越的進出の基礎ともなる問題であらう。若しこの點を無視して世界市場に覇を爭ふならば、假令貿易は榮えても國民の體位と文化水準の向上は期し

得られぬかも知れない。この意味に於て、水産物の國民食糧としての問題は單なる水産業の問題に限られるものでは決してない。

こゝでは専ら沿岸漁業に就いて述べたが、勿論漁業は沿岸漁業ばかりではない。沿岸漁場以外の漁場を漁場とする漁業即ち海洋漁業によつて水界資源の利用は大規模に行ひ得る。従つて、漁業がこの方面に發展することは重要なことであるが、だからといつて沿岸漁業を放棄し得るものではなく、沿岸漁業には沿岸漁業の重要性があり、而も海洋漁業の主たる漁獲物は限られてをり、漁業としてはこの兩者が共に發展し得るものでなければならぬ。海洋漁業に於ては沿岸漁業に於けるが如き漁場の場所的制限はなく海洋の何處に於ても漁撈は自由であるが、魚群の去來と技術的並に經濟的に制限せられて、海洋が全て漁場である譯ではない。従つて海洋漁業に於ても漁場は必ずしも廣大ではなく、現に我國の領土の沖合遠洋漁業に就いては既に狹隘化する懸念がある。勿論、洄游魚族の去來の場所としての新漁場を開拓することも可能であらうが、それは單に漁場の探見のみで達せられるものではなく、寧ろ技術的經濟的制限を克服し得る方法を伴はねばならぬ性質のものである。例へば漁船漁具等の漁撈手段の改善整備、漁獲物の保藏運搬處理製造市場の開拓配給等これが商品化をより有利ならしむる諸方策並に經營施設が完備されることが必要である。従つて經營は自ら大規模に企業化せざるを得ないであらうが、そのためには、漁業そのものゝ特質に基づく諸危険が克服乃至は分散され得る經營方法が採られなければならぬ。今日、海洋漁業の振興策が問題になつてゐるのは正に海洋漁業の現状が行詰りの状態に在ることを語るものであるが、いはゆる振興策として論議されてゐるものは極めて表面的なもので、右の如き諸條件を現實の海洋漁業の

状態より見てこれを如何に満足すべきかを根本的に而も組織的に調査研究されたものではないやうに思はれる。従つてこれは我國の水産業の現状に於て重要な一個の問題たることを失はない。

海洋漁業の一發展方向として外國領土の沿岸並に沖合遠洋に於ける漁業への進出が考へられ、また現に行はれてゐる所で、いはゆる海外漁業がこれであるが、北洋の漁業にせよ南洋の漁業にせよ、これらは單に業者の利潤採算の立場のみより行はるべきものではなく宜しく國家的見地に於てその發展を期すべきものであらう。而してまたその限りに於てのみよく海外漁業の振興を圖り得るし水産業の發展のため活路を拓くことが出来るであらうが、果して今日行はれてゐる所に遺憾の點がないであらうか甚だ問題である。

更に漁業に關聯して水界資源の保持涵養のための増殖、水産物の商品化の基礎としての水産製造などの問題は閉却し得ぬ所であり、これらの技術的乃至は經濟的な進歩發展を如何にして達成し得るか、水産經濟並に水産經營の方面から解決を待つてゐる實情に在るが、現在のところ他の産業と比較しても著しく遅れてをり、極めて部分的な方策施設より行はれてゐない。要するに漁業を樞軸とする水産業の現状は相變らず水商賣の域を脱するものではなく、國としても一貫した方針の下にこれを指導獎勵し産業としての發展を企圖する熱意と努力に缺けてゐるかに思はれる。勿論國の經濟の發展の狀況と段階に應じて産業の重要性に對し置く所の比重の異なるべきは當然である。従つて假令水産業自體に於て右の如く問題があるにしても、それをその比重以上に扱はんとするものでは決してない。

たゞ一般的にいつて、資源の保持涵養とこれが適切なる利用による國民經濟の發展と國民生活の充實とを圖る

ことゝは如何なる段階如何なる狀況に於ても經濟政策の目標でなければならぬ。而してこの目標に於て各個産業部門に於ける政策が如何に遂行せらるべきかは、國策として定められたる各個産業の比重如何に依存することは論を俟たぬ所である。勿論我々は實際問題として今日喧しく論ぜられてゐる國策に於て水産業が如何に評價され如何なる地位を與へられてゐるか知らないが、少くとも現實に現れた所を見ると過小評價されてゐるといふより寧ろ問題外に置かれてゐるのではないかといふ感を深うする。

述べるまでもなく、國策は内外の諸情勢に對應して樹立されるもので、時局と離れて空想的に觀念せらるゝものでないことは明らかである。その限りに於て、國策は時局によつて現實的な規定を受けるべく、従つてまた、水産業の問題も單に水産業自體としての問題ばかりでなくその時局的意義に於ても考へらるべきであらう。その意味に於ては、時局と水産業とは必ずしも縁の遠いものとして看過することは出来ない。

二

時局に就いては屢々その認識が問題とされる所であるが、何れにしても今日の國際的對立の激化、國際諸情勢の悪化はこれを事實として認めなければならぬ。而してこの險惡化しゆく諸情勢に處して各國がその軍備の充實強化を不可避としたのもまた必然である。併し乍ら、如何に軍備の充實強化が必要とされても國民經濟を壓迫し國民生活を脅威してまでこれを強行することは國防上無意味であるばかりでなく不可能である。従つて、一方に於て軍備の充實強化を圖ると共に、他方に於て國民經濟の發展と國民生活の安定が期し得られる方策を講じなければならぬ。併し方策はたゞ方策として講じ得るものではなく、一定の方策がその意圖を達成實現し得る地盤が

なければならぬ。いはゆる廣義國防を目的とせる方策が必要とする地盤を準戰時經濟體制と呼んでゐるのは周知の所である。而してかゝる方策がその性質として一般的に統制的であることは當然で、單に最高利潤の獲得を基準にして經營する企業の自由なる活動のみを以て國民經濟の指導的役割を演ぜしめず、國家がその目的を實現するために矛盾する限りに於てこれを制約し、更に進んでは積極的に權力を以てこれを指導する意味に於て自由放任ではなく統制でなければならぬ。勿論かゝる意味に於ける統制も、その現實の統制目的により統制方法を異にすべく、從つてまた統制の程度即ち國家が權力を以て經濟關係に及ぼす影響の程度は自ら異ならざるを得ないであらうが、國民經濟力の發展を統制の基準に置くことには區別がない。蓋し國民經濟力の發展なくして國民經濟の發展や國民生活の安定があり得る筈なく、國民經濟力の發展を阻止する諸矛盾の調和、諸條件の解消除却こそ統制を必要とする所以に他ならないからである。その意味に於て、今日政策の目標ともされてゐる「生産力の擴充」はまさに國民經濟力の發展の意義に解すべきである。

たゞ内外の情勢は現實の問題として軍備の充實強化と國民經濟の發展並に國民生活の安定即ち廣義國防の整備確立を必要とするがゆゑに、これを統制目的とし、この目的に對し必要であり且つ今日の我國の經濟狀態に適切有效なる統制方法を採り、またこれを可能ならしむる地盤としての準戰時經濟體制を完成せんとする所に政策の具體的問題があるのである。いはゆる資金の統制、産業の統制、貿易の統制の三問題は、生産力擴充を基準として廣義國防を目的とする限り必然的な問題である。併し、生産力擴充には、擴充の程度に相應する資源と市場の存在を條件とすることは論を俟たざる所で、若し資源に恵まれず市場を確保し得ぬとすれば、假令如何に統制を

行ふとしてもその限度以上に出ることは不可能といはなければならぬ。例へば如何に國際情勢に對應して軍備の充實が必要だとしても國民經濟力がそこまで伸び得ないとすれば自らその限度を以て制限されざるを得ないこととなるであらう。持たざる國の惱みである。我國の如きも、周知の如く、資源に恵まれず市場は狹隘である。従つてこれが確保と擴大とは國策遂行上不可缺の條件であり、いはゆる統制もこの條件が満足されてのみ有效でありその目的の實現性を得る。その限りに於て、これはまた我國の準戰時經濟體制の完成の條件でもある。日滿一體も日支の提携協調もこの意味に於て我國として最小限度の必要條件であり、如何にしてもこれを満足しなければならぬ性質のものである。

今回の日支事變は、支那側の日支提携協調の拒否のみならずこれが積極的な排撃に原因するが、事ここに至る以上日本としても押切らねばならぬ。若しこれを不徹底に處置するならばたゞに禍根を將來に残すのみならず今日の險惡なる國際情勢に處して我國の準戰時經濟體制の完成を期し得ないであらう。時局の重大性は、この準戰時經濟體制の完成を急がねばならぬ情勢と、この完成途上に於ける日支事變といふ不幸なる出來事とにかゝつてゐる。而もわが不擴大方針にも拘らず戰鬭の發展擴大と支那の背後にうごめく勢力とにより當面事態は更に時局の重大性を加へてゐる。従つて當面の問題としては、戰鬭によりかゝる障害を克服し國策遂行の道をひらくこと、この事變による犠牲殊に財政的經濟的犠牲を最小ならしめ準戰時經濟體制の完成を妨げざることであるが、またそれが準戰時經濟體制の完成過程に於ける問題である限り、これを以て問題が解決される譯でなく、事變地方に於ける事後の諸工作がよく國策の線に沿ふて遂行されるを要し、國內の經濟諸關係も同時にかゝる意味に

於て調整されなければならぬ。一部には、時局の重大性を論じたゞこの當面の過程的な問題を唯一の問題であるかの如く考へ直ちに戰時經濟體制を云々するが、今日の時局は、一應國民經濟力の發展を無視して財政經濟の一切をあげて戰爭に歸せしめ戰爭の勝利的解決が唯一の目的として全ての政策が指導される地盤たる戰時經濟體制をとるやうな事態でもなければ、さうした事實も未だ現れてはゐない。日本はもう少し先のことを考へてゐるし、またそれだけの餘裕をもつてゐる。つい二三箇月まへまで準戰時經濟體制を問題にし、それが何等完了してゐないのに戰時經濟體制をとり得る筈もなければ、また日支事變の惹起が直ちに戰時經濟體制に無條件に突入せしむるものでもあるまい。かくの如き議論は單に事物の表面を見て鬼面人を驚ろかす類のもので、今日の經濟政策にその方向を與へるが如き客觀的情勢の認識を缺くところの馬鹿囃子に過ぎない。

ゆゑに今日の經濟政策の基調はどこまでも準戰時經濟體制の完成に在り、その過程的な問題として日支事變の財政經濟的處置とこの事變によつて醸された事態に對する處置とが加はつたに過ぎない。我國として迷惑至極の話であるがこれまた止むを得ない所であらう。従つて日滿支を一體としての地盤に於ける統制の方向は事變の有無に拘らず必然的でありたゞ事變的處置に關聯してテンポをはやめまたはやめねばならぬ所に相違があるだけである。

勿論こゝに時局の經濟性を問題にすることが直接の目的ではないから多く論ずる必要はないが、水産業の意義役割も、少くともこれを今日に於て問題にする限り、かゝる時局の性質に於て考へられねばならぬことは當然である。既に先に述べたるが如く、一個の産業として水産業はそれ自體の問題をもつてゐる。併し今日に於てそれ

を直ちに解決すべきか、またこれを如何に解決すべきかはたゞに水産業のみで決し得るものではなく、時局の經濟性に於て答へらるべきである。例へば海洋漁業の發展は水産業として大いに望む所ではあるが、國民生活の安定の見地からすれば第一に疲弊せる漁村のために、第二に戰時に於ける水産食糧の確保のために沿岸漁業の振興の方がより重要であるといはなければならぬ。併しまた一方國民經濟的に見れば國際收支の均衡を得せしむるために内地沖合遠洋に於ける海洋漁業並に海外漁業が水産貿易に貢獻する所が大であり、この部面の重要性を閑却することは出来ない。従つてかゝる點に根本的な方針を立てぬ限り、同じく水産業の發展といつてもこれを如何に指導統制すべきか定まらぬ譯である。況んや今日緊急とされる軍需工業の整備の點からすれば、出来る限り資金をこの方面に廻し生産設備の擴張と充實とを行はねばならず、その意味からすれば寧ろ水産業どころではないといひたい状態である。併し、軍需工業の擴充強化が必要だからといつて平和産業の沈滞を生じては國民經濟の保持發展は不可能であり、従つてまた軍需工業自體も發展し得るものではない。準戰時經濟體制は一面この兩者を時局に適應する比重に於て調整せんとする體制であり、或は産業の畸形化の矯正防止の體制でもある。ところが若し、これに就いて一定の目標がなく、現實事態に關する正確にして十分なる調査なくして行はれるならば産業の畸形化の防止とその調整を意圖しながらその結果は寧ろ逆となり畸形化増進となるであらう。

ゆゑに準戰時經濟體制の完成を目的とする限り、國策遂行の計畫とこの計畫に要する調査の完備を圖るべきであり、また計畫を實現し得る統制機構を備へて有效適切なる統制手段を講じなければならぬ。行政機構の改革などが問題になるのは勿論かゝる理由によるものであらうが、今日のところなほ甚だ不十分であることを免れな

い。殊に調査の方面から見た機構機關の不完全なることは果してこれを放置していゝかどうか甚だ疑はしい。この點に就いては別に論ずる機會があるであらう。

三

水産業の時局的役割に就いては、右に述べた時局の性質と水産業の現状から検討しなければならぬが、先づ一般的に考へ得ることは第一に國民食糧の供給に於ける役割であり、第二に輸出貿易振興に於ける役割である。

國民食糧の豊富低廉なる供給の第一線は沿岸漁場及び湖沼河川の内陸水界、第二線は我領土の沖合遠洋を漁場とする海洋漁業、第三線は海外漁業である。而して沿岸漁場はその自然的條件に於て水産生物の種類と數量に富み漁撈も容易であり且つ消費地に對する配給も便利である關係上、國民食糧の供給は専らこゝに重點を置かねばならぬ。殊に戰時的狀態に於てはその必要がある。従つて、沿岸漁場や内陸水界の漁場に就いては平素よりその自然的生産力を保護涵養し有事の際に備へなければならぬ。従つてこれらの漁場は寧ろ自然の倉庫として或は増殖場として保護し、漁業としては、海洋漁業に於てその發展を圖ることが適當である。

沿岸漁場の保護涵養に就いては増殖施設を十分にすることが必要であることは勿論であるが、同時に沿岸漁業の經營の改善が行はれるのでなければ如何に増殖施設を行ふもその効果を期待することは出来ない。先に述べたやうに漁業者の大部分は沿岸漁業で生活してゐるもので、而も彼等の有する漁場は専らその地先水面であり、專用漁業權の範圍に限られてゐる。而して定置漁業權や特別漁業權の設定されてゐる沿岸の好漁場は資力のある漁業家に屬するか或はその支配の下に在つて漁村民は單なる勞働力の提供者たる場合が多い。従つて狭い漁場に多

數の漁業者が入込み而も彼等の生活を維持するに足る貨幣收入を得なければならぬ關係上酷漁に陥ることは必然で、今日の沿岸漁場の自然的生産力の減退もかゝる原因によるものに他ならない。従つて、國民生活の安定の必要から漁村對策が重要であることは勿論だが、他方、漁村の經濟を更生し漁村民の生活を安定せしむることは沿岸漁場の保護涵養のための要件であることも忘れてはならぬ。この意味に於て漁村の經濟更生はたゞに漁村の問題に限らるべき性質のものではない。而してまた漁村の經濟更生は單に算盤づくで行くべきものでもない。ところが一部にはたゞ生産額の大小を以て或はその産業によつて賄はれてゐる人口の多寡を以て産業の重要性を測りその他を考慮に入れぬ考へ方が行はれ地方行政機關乃至は地方議會等に於て水産業が著しく閑却されてゐる傾向がある。尤も地方の利益を主とする限り無理もないことゝ考へられるが、國民食糧の供給者としての水産業は寧ろ國策的見地を以て見るべきであり、國家としてもこの點に就いて十分な指導と保護を與へることが必要であらう。沿岸漁業の振興並に漁村の經濟更生の如きはかゝる方向からのみ解決し得る問題である。

沿岸漁場と共に考へらるべきは内陸水界の自然的生産力の保護涵養である。現在のところでは主な河川湖沼に就いては何等か増殖施設が行はれてゐるが、何れも十分ではなく、殊に利用されてゐない水界が極めて多い。勿論これを營利的に經營することは容易でないが、公共的に水界生物の繁殖の適地を開拓し、一般大衆に生鮮なる水産物を豊富に得せしむることは重要なことゝ考へられる。我國としては從來海産物に恵まれてゐる結果、何れかといへば淡水産物に對しては一部を除いて輕視する傾向がある。併し、生鮮なる海産物は貯藏運搬の發達した今日に於て決して供給が不可能ではないがそれだけに高價となり、山間地方の農村民が購買力をもつものではな

い。これらの人々によつて用ひられる食品としての水産物は鮭鱈鰻等の鹽乾乃至は素乾品で而もその多くは下級品に限られる。勿論これも豊富潤澤であれはいいが、農村にはこれに對してさへ購買力が十分ではないのである。これで國民體位の向上などが望み得るものではない。従つて農閑期その他に於ける過剩勞働力を利用し、公共的に魚苗の供給及び増殖施設を講じ淡水産物の自給を圖るが如きは適當なる方策であらう。

一體、水産物に就いては、生産者たる漁業者は極めて安く賣らざるを得ず、消費者たる大衆はまた極めて高く買はされてゐるといふ不合理な實情に在る。従つて生産並に流通の機構の改善は急務である。漁業者が安く賣らざるを得ないのはその生産關係と生産物が鮮度を保持しなければならぬといふ性質とから必然的に窮迫商品化されるからであり、消費者の高く買はされるのは鮮度保持並に運搬に費用を要するにもよるが流通過程の機構の不備が主たる原因である。現在行はれてゐる所では、漁業組合制度を合理的に運營することがこの問題に對する解決策の第一段であり、漁業用品例へば油、氷、鹽などの獨占商品に就いて沿岸漁業保護の見地から考慮し對策を講ずることが第二段であり、水産物の貯藏處理加工製造運搬に關する技術的並に經濟的改善が第三段であるが、なほ一般消費者たる國民の生活意識の向上と生活の改善とを第四段の方策として擧げねばならぬ。これらの諸對策は時局の重大性のゆゑにこそ重要視されねばならぬものであり、而も必ずしも國費を多く要するものではなく、根本方針を確立して適切なる方策を樹立實行すれば足るものである。

勿論、國民食糧としての水産物の供給が沿岸漁業にのみ限らるべきものではなくまた限る必要もない。寧ろ積極的に海洋漁業に期待すべきであるが、既に今日の海洋漁業の状態では、その發展は専ら海外漁業の部面に在る

ものと考へられる。海外漁業はまさに海の植民であるが、併し、國民食糧の非常時的事態に於ける供給者としてはこれに多くを望むことは出来ないから、食糧自給の見地よりすれば海洋漁業としては内地沖合遠洋漁業に限られるであらう。併し今日の内地沖合遠洋漁業は或程度の行詰り状態に在るかに思はれる。その原因として考へられるのは、漁場の狹隘化、漁獲物の商品化に就いてなほ多くの障害の存すること、經營が組織化されず不合理の點の多いことなどを擧げることが出来る。従つて新漁場の探險開拓も勿論必要であるが、他方經營組織の改善と漁獲物の商品化の部面に於て改善されぬ限り遠洋漁業の振興は不可能といはなければならぬ。併し、經營組織の改善は直ちに遠洋漁業の企業化而してその大規模化を豫想するものではなく、従來行はれてゐる協同的漁業としての遠洋漁業に就いては寧ろ漁業協同組合によつてその組織の改善と統制を行ふ方が適當である。而してこのことはまた他方沿岸漁業に於ける過剩勞働力に捌口を與へる道を開くこととなるであらう。沿岸漁業の行詰り打開策として海洋漁業への進出は一應考へ得ることであるが、實際問題になると必ずしも容易なものではない。これを實現し得る道をつけることが先づ第一の問題である。漁業協同組合がかかる部面に於てもその機能發揮し得る基礎を與へることは極めて緊要であるといはなければならぬ。

以上に述べた所は、要するにそれが漁業乃至は一般に水産業のために重要だといふばかりでなく、準戰時經濟體制を完成せねばならぬ今日の時局に於て漁業の負ふその役割を果すために解決せねばならぬ問題だといふ意味に於て重要である。今更國民食糧政策の確立の必要を云々するまでもないが、いさとなつて狼狽した所で恐らく間に合はないであらう。この點に就いて水産業が果して何處まで考へられてゐるか、寔に寒心に堪へない。

水産業の時局的役割は單に國民食糧の供給のみにとどまるものではない。更に進んで輸出貿易の部面に於てその振興を圖り國際收支の均衡に寄與し得る素地と可能性とを十分にもつてゐる。即ち水産物に關する限り、他の多くの輸出品の如く原料を輸入にまつ必要はなく、沿岸漁場は増殖により海洋漁場はその擴大により生産に制限を受くること少く、而も貯藏處理加工製造の技術の進歩は、商品性を高めると共に廣くしつゝある一方世界に於ける水産物の需要は食品として或はその他の利用のため増大する傾向に進んでゐるのであるから、若し我國に於ける水産物の輸出商品としての處理が適切であり、市場の開拓に努力するならばこれが發展には多大の期待をかけることが出来るであらう。

統計によると、内地樺太、露領、朝鮮、臺灣よりの水産物の輸出總額は昭和十年に於て一億八百四十七萬圓（昭和十一年一億二千六百九十三萬圓）で、鮮・鹽・乾・魚介三千二百六十九萬圓（三〇・一％）、罐詰類六千三百萬圓（五八・一％）、其他一千二百七十八萬圓（一一・八％）である。またこれを輸出地別に見ると、内地樺太八千七百四十四萬圓（八〇・六％）、露領一千三百七十一萬圓（一二・六％）、朝鮮四百十五萬圓（三・八％）、臺灣三百十七萬圓（三・〇％）となつてゐる。而して仕向地の主なるものに就いて見れば、米國二千二百六十七萬圓、英國一千九百七十八萬圓、其他歐洲諸國一千六百九萬圓、支那一千六十一萬圓、滿洲國四百五十七萬圓、海峽殖民地三百四十四萬圓で、そのほか濠洲、蘭領印度、比律賓、南洋方面に各二百萬圓内外の輸出（朝鮮臺灣よりの輸出を除く）がある。輸出水産物としては上述の如く罐詰類がその價額に於て主位を占めるが、鮭鱒、蟹、鰯、鮪の罐詰がこれを代表し歐米の市場に確實な地位を占めてゐる。殊に鮭鱒及び蟹の罐詰が支配的であるが、その意味に於て我國に於ける北洋漁業の重要性はこれを看過し得ず、更に今後鱈等の漁業の發展を圖つてこれが進展と確保を念とすべき

であるが、これが經營と發展策とに就いて一般の關心の薄いことは遺憾といはなければならぬ。

其他の水産加工製造品に就いても、水産食用品に關する歐米人の注意と關心の進みつゝある今日これが宣傳開拓をなし、またその嗜好に適應する製品とこれに必要な技術の研究を行ふならば、輸出進出の餘地は十分に在るものと考へられる。水産貿易の發展のため今日行はれてゐる以上の施設の望ましい所以である。而してこのことは海洋漁業の著しき進展を促すこととなるであらう。

東洋市場に於ては支那が仕向地の首位に在る。鹽乾そのほかの加工水産物の輸出先として滿洲國、支那及びその他の南方市場に於ける發展は今後極力努力すべき部面でこれらの市場は完全に掌握すべくこの事變を契機として方策を講ずる必要がある。こゝに詳しく述べてゐる餘裕はないが、從來の缺點は貿易の機構に甚だ不完全であつたばかりでなく、生産と貿易との聯繫に十分でなかつた所に存する。従つて貿易としての發展に障害があり且つ生産者に及ぼす利益が必ずしも大ではなかつたのである。今回の事變は勿論水産物の輸出を停止せしめたが、それは一時的のもので、この困難を越えてこそ初めて發展の道はひらかれるであらう。そしてまた必ずその道をひらかねばならぬものである。而してこの部面については沿岸漁業もまた大なる關係をもつもので、單に國民食糧の確保のみに満足すべきではない。

以上に述べた所は決して十分ではなく寧ろ甚だ不十分であるが、水産業が今日の時局と共に動きその果すべき役割は決して小なるものではない。殊に資源の確保に血眼になつてゐる世界の持たざる國に於て、この惠まれた水界資源の利用と涵養とを看過するといふことはないのであらう。準戦時經濟體制下に於ける水産國策を如何に樹立するか、今日の一個の重大なる問題である。